

中国大陸で①シセン（死線）をくぐり抜けた兵士2人が、東京の（a）闇市（やみいち）で再会する。（1）天地が入れ替わったかのような世間の急変に惑う元②グンソウ（軍曹）と一等兵。今年の手塚治虫文化賞（新生賞）の受賞が決まった漫画『あれよ③星屑（ほしくず）』は、焼け跡の空気を濃く伝える▼戦中戦後を知る世代の④マンガ（漫画）家なのかと思いつつ読んだが、作者の山田参助さんは高度成長の末期に生まれた46歳。「子どものころ、松谷みよ子さんなどの児童文学に書かれた戦中戦後の描写に触れました。その後、当時を描いた映画を多く見て、田中小実昌さんや野坂昭如さんの小説を愛読しました」と話す▼描写は⑤タンネン（丹念）である。当時の軍装を調べ、部隊の人数などは元自衛官に確かめた。必要なセリフには中国語やハングルを添えた。街並みを描くのにには当時の報道写真が役立ったという▼描き出されるのは、人々が背負ったそれぞれの（b）業である。戦地で⑥捕虜（ほりよ）を処刑した男は、手に残る感触に（c）さいなまれる。夫に先立たれた妻は⑦キュウボウ（窮乏）のあまり売春に走る。なりふり構わず必死に生き抜いた⑧セジョウ（世情）が浮かぶ▼《Aしばしば》敗戦により価値観が一夜で逆転したと語られるが、《B やはり》人の心はそれほど軽くはない。当時はだれもが「戦中」をひきずり、あえぎながら「戦後」を生きたのだらう。読後感は重くて深い▼単行本全7巻。各巻各ページから占領下の⑨怒声（どせい）や泣き声、笑い声が聞こえる。（d）復員兵の⑩カットウ（葛藤）を軸に実写化されそうな気がするものの、（2）できればこの漫画の質感のまま作品世界に浸り続けたい。（2019年6月1日「天声人語」）

問一 ①～⑩のカタカナ部は漢字に直し、傍線部は読みを書き入れなさい。

問二 （a）～（d）までの言葉の意味を答えよう。

（a）闇市 （闇取引の品物を売る店が集まっている場所）

（b）業 （報いを生じるものとなる罪深い行い）

（c）さいなまれる （責め苦しめられること）

（e）復員 （兵士が兵役を解かれて帰郷すること）

問三 傍線部（1）に使われている比喩の種類を答えよう↓（直喩）

問四 《A》《B》に適する語句を次から選び書き入れよう。

・やはり ・そして ・しばしば ・たまたま

問五 敗戦前の価値観を示す各文の出典を語群より選び記号で答えよう。

ア 生きて虜囚の辱めを受けず、死して罪禍の汚名を残すこと勿れ （y）

イ 義は山嶽よりも重く死は鴻毛よりも軽しと覚悟せよ （x）

ウ 一旦緩急あれば義勇公に奉じ以て天壤無窮の皇運を扶翼すべし （w）

エ 大日本帝国は万世一系の天皇之を統治す （z）

〔語群〕 w 教育勅語 x 軍人勅諭 y 戦陣訓 z 大日本帝国憲法

問六 傍線部（2）と筆者が思う理由として適当でないものの記号を○で囲もう。

ア 敗戦後の闇市や焼け跡の空気が濃く伝わるため。

イ 敗戦後の人々の生きざまが重く深く伝わるため。

⑨ 実写の方が、より生き生きと戦争の悲惨さを伝えられるため。